



## 今年の干支は丙午（ひのえうま）

校長 勝亦英彦

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2026年の干支は、60年に一度回ってくる「丙午（ひのえうま）」です。十干の「丙」は太陽、十二支の「午」は馬を象徴し、方角でいうと南を指すことから、この2つが重なることで、燃え盛る火のような力強いエネルギーが生まれるといわれています。

また、馬を干支に当てはめた「午」は、十二支を使った時間でいうとちょうど昼の12時ごろの時刻です。ここから前、ここから後という区切りで「午前」「午後」という言葉が使われるようになりました。

飯田小学校も今年150年の区切りを終え、151年目のスタートになります。新しい年を迎え、子供たちは夢をもったり、目標を立てたりしていることと思います。全ての子供たちの太陽のような明るさや情熱を大切に、職員一同寄り添い支援していきたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月7日の始業式では、子供たちに向けて次のような話をしました。

〈前文略〉

今日は「1年の計は元旦にあり」という話をします。この言葉は聞いたことはありますよね。

どういう意味かというと、「1年のことは年の初めに計画を立てるべきである。物事は始めが最も大切であり、最初にしっかりと計画を立てておくべきだということ」です。実はこれには続きがあって、ひと月の計は一日（ついたち）にあり（1か月の計画は月初めに）、一日の計は鶏鳴にあり（一日の計画は、一番どりが鳴く朝に立てるべき）」と昔の戦国武将、毛利元就が言ったことが由来だそうです。何事も始めが肝心だということです。

校長先生もそう思います。目標がないと計画が立ちません。計画がないと実行できません。実行しないと達成できません。

さあ、今日から3学期の始まりです。「まとめの学期」であると同時に、「新しい学年の0学期」準備の学期ですね。皆さんは、どんな目標を決め、3学期の計画を立てるのか、とても大事ですね。目標の達成を楽しみにしています。

ところで、今年の干支は「午」。馬は、昔から常に前へと走る動物として知られています。また、長距離を走りぬく粘り強さを持っています。皆さんも目標に向かって前へ前へ、難しいことや苦手なことにも粘り強く取り組んでほしいです。

そして馬は、昔から人の生活を支え、共に働くパートナーでした。また、馬同士もお互いを守りながら生活します。クラスの友達や先生方と共に成長することが大切です。卒業・進級を迎えるこの短い3学期、お互いを支え合い、力を合わせることも忘れないでください。

特に卒業を控えた6年生は、下級生の模範となり、最後まで学校をけん引し、5年生への引継ぎも確実に行ってください。

一人ひとりが輝き、未来に向かって、馬のように大きくジャンプする3学期にしていきたいと思います。

学校では、本年度の教育活動について反省を行い、次年度へつないでいく時期を迎えています。12月に実施いたしました保護者の方々からのアンケートや御意見の中には、温かい御支援の声、または厳しい御指摘もいただいております。来年度の教育活動に反映できるように検討して話し合いを進めて参ります。詳細は、真誠第10号でお知らせします。